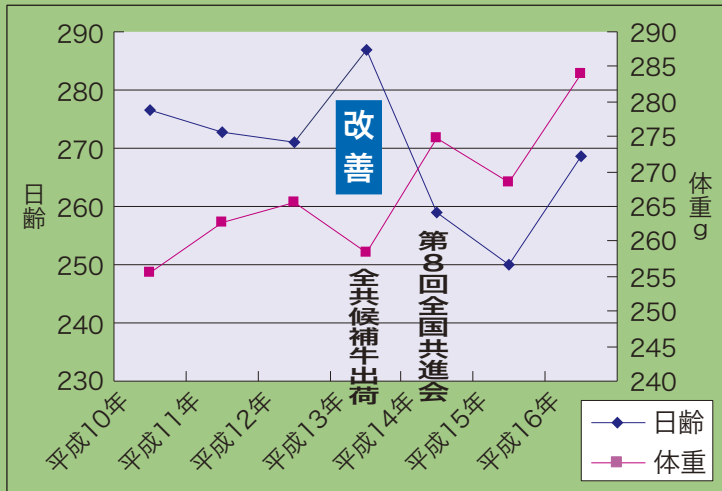


図5 A農場における子牛市場出荷成績の変化



以上のことをA農場で実際の子牛育成に取り入れた結果です。

それまでは出荷日齢も長く、体重/日齢が1を切っていましたが、改善後は発育が良くなり1を越え、出荷日齢が短縮したことで市場の評価も高くなりました。

「スターター (人工乳) 馴到期 (1~2ヶ月)」



**手間をかけずに
スターターに慣らす**

- 飼槽の**清掃**
- **粗飼料は少量**(撒き餌)
- **柔らかい良質乾草
またはペレット**
(嗜好性良く高タンパク、高Caのもの)
- **スターターで
粗飼料を覆う**

「2ヶ月齢まで」

子牛専用の飼槽を設け、そこに細断した良質で柔らかい粗飼料をごく少量置き、その上にスターターをのせて給与しました。

これは、好きな乾草を食べる時に自然に味を覚え、自発的にスターターを食べるようにするためです。

軟便になっても体温上昇など病的なものでなければそのまま給与を続けます。(下痢と軟便を見分けることが大切)

この時期の乾草給与は最小限にとどめ(45日齢で200グラム程度)、スターターを十分食い込ませることが非常に重要です。(乾草を食べ過ぎるとスターターを食べられないため発育にとってはマイナスになります。)